

第4回 「奈良」

日時: 2005年11月19日(土) 13:00~18:30 (ポスターセッションは 11:00~17:10)
会場: 奈良市北部会館「市民文化ホール」
主催: 日立環境財団
共催: 近畿環境パートナーシップオフィス
協力: 大阪府民環境会議、奈良環境ネットワーク、環境文明 21、日本環境教育フォーラム、
産業と環境の会、日立製作所
後援: 環境省、文部科学省、奈良県、奈良県教育委員会、奈良市、奈良市教育委員会、
地球環境戦略研究機関、全国環境保全推進連合会、
日本経済団体連合会自然保護協議会、日本環境教育学会関西支部、奈良地理学会、
奈良まちづくりセンター、奈良県環境県民フォーラム、京エコロジーセンター、
奈良教育大学附属自然環境教育センター

参加者: 140名

参加費: 無料

●プログラム

みんなが主役の環境教育シンポジウム

～地域を生かした環境教育～

- | | |
|-------------|---|
| 12:30 | 開場 |
| 13:00-13:05 | 開会: 主催者挨拶 財団法人 日立環境財団 |
| 13:05-13:10 | ご挨拶
小林 光 氏 |
| 13:10-14:10 | 特別講演「花鳥画の出発点」
上村 淳之 氏 |
| 14:10-14:40 | 基調講演「21世紀の環境教育が目指すもの」
谷口 文章 氏 |
| 14:50-16:20 | 分科会
①学校・地域における環境教育
発表者: 山田 卓三 氏
コーディネーター: 本庄 眞 氏
②歴史的風土・景観と環境教育
発表者: 上野 邦一 氏
コーディネーター: 岩本 廣美 氏
③森林を活用した環境教育
発表者: 坂口 泰一 氏
コーディネーター: 岡本 胤継 氏
④自然エネルギーと環境教育
発表者: 豊田 陽介 氏
コーディネーター: 阿蘇 紀夫 氏 |
| 16:30-17:00 | 分科会報告・総括 閉会 |
| 17:10-18:30 | 懇親会(希望者のみ、市民文化ホール内、無料) 懇親会閉会 |

●特別講演「花鳥画の出発点」

上村 淳之 氏 日本芸術院会員、財団法人松柏美術館館長、京都市学校歴史博物館館長

上村氏の自宅には広大な庭園があり、そこに春夏秋冬さまざまな鳥が訪れるという。日本芸術院賞受賞、創画会賞などを受賞した氏は、東洋独自の絵画表現を模索しながら花鳥画の新しい展開を求めて研鑽を重ねているが、その重要な位置を占めているのが、自宅の庭の「花」や、そこに来る「鳥」なのである。

●基調講演「21世紀の環境教育が目指すもの」

谷口 文章 氏 甲南大学教授、日本環境教育学会関西支部長

○宣言・法律・地方行政

- (1) 人間環境宣言／ベオグラード憲章／テサロニキ宣言
- (2) 環境保全活動・環境教育推進法／基本方針
- (3) 大阪府・兵庫県における環境教育施策

○日本の環境問題

- (1) 奇形ザル調査—自然環境の破壊—
- (2) 水俣病調査—社会環境の破壊—
- (3) 心の汚染—精神（心の）環境の破壊—

○環境教育の実践事例とその展開

- (1) 自然エネルギー問題と環境教育—中国・陽泉市と郷鎮企業の現状—
- (2) 学校—地域における環境教育—大学における環境教育の実践—
- (3) 歴史的風土・景観と環境教育—「あいな里山公園（あいな郷再生）」計画—
- (4) 森林を活用した環境教育—カナダにおけるエコフォレストリーの環境保全活動—

○21世紀の環境教育がめざすもの

- (1) タイ・カナダにおけるエコ研修—大自然の原体験—
- (2) e-Learning の活用と国際環境教育ネットワーク化—タイ—
- (3) e-Learning の活用と国内環境教育ネットワーク化—宮城教育大学—

●第1分科会「学校・地域における環境教育」

発表者 山田 卓三 氏 国立兵庫教育大学名誉教授

コーディネーター 本庄 眞 氏 真美ヶ丘東小学校教諭

環境教育の「環境」、「教育」という言葉は、それぞれの分野でいろんな考え方、認識の違いにより多種多様に定義され用いられている。しかし、これらは有機的に網の目のように関わりあっている切り離すことができない内容である。環境教育を考えるには、その目的、内容、方法などにそれぞれ評価の観点が必要である。環境教育の主体である人間も、人間を取り囲む環境も、ともに変化するもので、学ぶことは容易ではない。家庭教育のしつけから、学校教育、地域の教育など生涯教育の視点での学習が望まれる。

環境教育の根底には、事象やものごとを認識し、理解する体験と知が必要である。この体験と知を得るためには、事象を多面的でしかも科学的な視点で捉えること、また内からと外からの視点が

必要だ。そのために必要な教材の適否や開発、その教材を適切に提供することが、学校における環境教育の重要な役割と考えられる。また、例えば奈良では歴史的環境に子どもたちが育っているなど、その地域の環境の持つ意味を体験と知で学習することも重要である。この過程で、風土や言葉の文化、は重要な役割を果たす。

環境教育を実施するにあたり、その目的、ねらい、視点、可能性などを明確にしておくことが必要だ。この基礎的な方向性を検討し、明らかにしてきながら、環境教育の具体的な成果を評価できるようにしていくことが求められている。

●第2分科会「歴史的風土・景観と環境教育」

発表者 上野 邦一 氏 奈良女子大学教授

コーディネーター 岩本 廣美 氏 奈良教育大学助教授

奈良県には、歴史的風土や景観が広範囲に残っているし、文化遺産も多い。研究者だけが町並み調査を行い、保護を提案する時代は、過去のものになりつつある。近年は、子どもたちが、地域の特性を発見する活動が広範囲に展開している。地域の特性はいろいろなものがあるが、奈良では、歴史的な住まい・それらが連なる町並みが、地域の特性の一つであると考えられよう。

事実、子どもたちが参加する活動として、奈良町では”奈良町探検隊”、大宇陀町では”町並み探検隊”が実施された。本年、御所町(ごせまち)では、町に住む子どもも大人も参加して、建物を描く活動を行った。一人で一軒の建物を、全員が同じ寸法で描き、それらをつなげて町並みの図面としよう、としている。町並み調査で研究者や学生が図面を作成するが、それを住民の方々や子どもたちにやって貰う、という活動である。

狙いは、住んでいる町の建物をじっくり見る、手を動かして描いてみる、ことを通して、再発見し愛着を持ち、町づくりのきっかけにして欲しい、からであった。作成した図面をつなげて、町並みの図面とし、霜月祭(そうげつさい)というイベントで展示する。作図に参加しなかった子どもたちや住民も、楽しんで貰おう、という意図である。調査はえらい先生がやるものではなく、自分たちでも出来る、という活動でもあった。もちろん研究者の役割は別にある。

分科会では、こうした御所での活動を紹介し、風土・景観を考える学習の様相について意見を交換した。

●第3分科会「森林を活用した環境教育」

発表者 坂口 泰一 氏 (財)吉野川・紀の川源流物語事務局長

コーディネーター 岡本 胤継 氏 NPO 法人 総合教育研究所理事長

紀伊半島の中央に近畿の屋根と呼ばれる紀伊山地がある。その中央部に川上村がある。東から南に台高山脈が走り、大台ヶ原は年間降水量が4,000mmを超え、その雨を集めて、吉野川が村の中央を流れる。北から西に連なるのは、世界遺産に昨年登録された吉野・大峯奥駈道が走る吉野山や山上が岳に囲まれている。

こうした気候が杉や桧の生育に適し、吉野林業の中心地として栄えてきた。植物、動物の生態系においても南限、北限にあたり、また、中央構造体が生物の生息を分けているような地域にある。歴史的には、縄文早期、今から1万年前の遺跡が出土しており、古くから人の往来があったことが判っている。歴代の天皇や文人なども時代を超え多く訪ね来ている。南北朝の後の時代が歴史の裏

側に「後南朝哀史」として残っている。また、500年といわれる吉野林業の歴史があり、吉野杉や桧の主産地として栄えてきた村で、殊に明治のはじめ、吉野独自の蜜植林業を確立し、その手法で全国に植林の必要性や技術を伝えた土倉庄三郎翁の業績は有名である。

ここで、環境による地域づくり、森林の特徴を生かす、森林環境教育への取組み、環境教育の課題、対策と試み、まとめと討論を行い、子どもたちに本物を与えるためには、背景として村づくりの柱に環境をテーマにし、自然観察指導員、「吉野川源流－水源地の森」の購入と保全、森と水の源流館の建設等を促進し、「流域への働きかけ」つまり源流学を考えて行くこととした。

●第4分科会「自然エネルギーと環境教育」

発表者 豊田 陽介 氏 NPO 法人 気候ネットワーク

コーディネーター 阿蘇 紀夫 氏 京エコロジーセンター事業長

生活の中で温暖化の影響を感じるが増えてきた。桜の開花の早まり、紅葉の遅れ、生物の分布域の北上、都市部での降雨パターンの変化（50mm以上の降雨頻度の増加）、真夏日の増加、さらに台風の勢力拡大など、温暖化の影響は多岐に及ぶ。科学者の間では、こうした温暖化の影響は温度上昇とともに今後ますます増大し、気温上昇が2～3℃になると、地球規模の影響が増大すると見られている。

逆に、気温上昇幅を2℃以下に抑えることができれば、地球規模の影響の増大を防止することができる。として「気温上昇2℃以下」が国際的に長期目標を設定する際の前提になりつつある。

日本は京都議定書の2010年6%減の公約に対して、基準年となる1990年から2004年までにCO₂排出量は7.4%（速報値）増加しており、このままでは2℃未満はおろか第一約束期間の目標達成すら危ぶまれている。

こうした中で、有効な温暖化対策として今後の普及が求められているのが自然エネルギーだ。

自然エネルギーは、温暖化の主たる原因となっているCO₂を排出しないばかりか、地域資源の有効活用からの地域活性化や雇用創出につながり、さらには普及啓発や環境教育にも活用することが可能である。気候ネットワークでは、こうした自然エネルギーを市民の手で進めていくことに大きな意義を見出し、その一環として市民共同発電所、自然エネルギー学校の取り組みに主体的に関わっている。

市民共同発電所としては、京都で「おひさま発電所」と呼ばれる市民共同発電所は現在までに7ヶ所に設置され約34kWの設備容量、参加者は1,400人以上にのぼる。太陽光発電を設置した施設では、点灯式を始めセミナーや学習会の開催、夏祭りでリユースやごみ減量の環境対策が実施されるなど、その後の環境教育・学習や具体的な活動への発展が見られる。

また、気候ネットワークが自然エネルギー普及の担い手の育成とそのネットワーク作りを目的に開催している、「自然エネルギー学校・京都」は、今年で7期目をむかえ、毎年、多くの人材を輩出している。さらに、その受講生を中心に各地で新たな自然エネルギー学校が誕生し、これまでに福岡、名古屋、兵庫、岡山、和歌山、枚方市（大阪）で開催されている。

このように、今、自然エネルギーを通じ新たな形で、温暖化防止教育が全国に広がりつつある。

●ポスターセッション

ポスターセッション参加団体は以下のとおり。

地球環境関西フォーラム、関西広域連携協議会、NPO 法人 こども環境活動支援協会（西宮市）、

NPO 法人 エコパートナー21、NPO 法人 野生生物を調査研究する会（神戸市）、NPO 法人 奈良環境カウンセラー協会、NPO 法人 奈良ネイチャーネット、NPO 法人 ほっとねっと、NPO 法人 フォギーマウンテンネットワーク、NPO 法人 総合教育研究所、サークル おてんとさん、奈良環境ネットワーク、シャープ(株)環境安全本部、大阪ガス(株)環境部、(株)南都銀行総合企画部、市民生活協同組合 ならコープ、(財)公園緑地管理財団飛鳥管理センター、奈良県（環境政策課エコキッズプラザ） 以上奈良地域の参加団体

旭硝子(株)、エクソンモービル・ジャパングループ、(株)荏原製作所、関西電力(株)、九州電力(株)、(株)クレハ 呉羽環境(株)、(株)神戸製鋼所、佐川急便(株)、サントリー(株)、新日本石油(株)、(株)損害保険ジャパン、中国電力(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、トヨタ自動車(株)、日産自動車(株)、日本製紙(株)、日本電気(株)、(株)日立製作所、富士写真フイルム(株)、(株)ブリヂストン、本田技研工業(株)、NPO 法人 環境文明 21、NPO 法人 ソフトエネルギープロジェクト、(財)地球環境戦略研究機関、横浜開港倶楽部、(財)日立環境財団

